

待ちに待った給食  
ごはん あじフライ  
ポテトサラダ  
小松菜の味噌汁

# 夢の星 ほぼ日刊 Cカラット

第716号

神町中学校 夢色通信社  
令和2年9月11日

## 3年 平和学習

神町中学校の体育館が沖縄とつながった。沖縄に行く予定だった3年生が、オンラインで「平和学習」を行った。お話をいただいた具志堅隆松さん、東根と沖縄を繋いで下さった近畿日本ツーリストの皆さん、ありがとうございました。

私になぜ、沖縄戦の遺骨収集を始めたかという、戦争で亡くなった人を家族に返してあげたかったからです。沖縄戦で遺骨となった人達は、遺骨は見つかっても誰のものかわからず、家族のもとに返すことができない状態でした。赤紙1枚で戦争に招集したのに、亡くなってしまうと「名簿がないからわかりません」（実際は証拠を隠すため燃やしてしまった）で終わりにしてしまいます。戦場で亡くなった方は、最後はお母さんやお父さん、子供や家族のことを思って死んでいったのだから、せめて遺骨ぐらいは家族のもとにお返しすべきではないか。国はあまりにも無責任ではないかと思ったのです。国に訴えて遺骨収集の法律をつくり、収集した遺骨を焼くことをやめ、DNA鑑定を行い家族のもとに帰れるようにしたのです。戦争が起きていた時代は言えなかったことも、今は自由に言えます。強い者が弱い者をいじめている時こそ、批判をしなければなりません。それが、平和に生きることにつながっていくのだと実感しました。遺骨収集をやってきて、大事なことに気付きました。それは、①人を殺すのは間違っている ②人に殺されるのは間違っている ③自分で自分を殺すのは間違っている ということです。「死」は誰にでも平等に訪れます。「死」と「殺される」ことは違います。「死」を受け容れられるように、一生懸命生きることが大事なのだと思っています。また、「殺す」という部分を「いじめる」と置き換えてもいいかもしれません。人をいじめるのも、人にいじめられるのも、いじめられているのは仕方ないと思うことも間違っていると思います。

沖縄戦遺骨収集ボランティア  
「ガマフヤー」代表

ぐしけん たかまつ  
具志堅 隆松 さん

28歳のとき遺骨収集にたずさわったことを機に、沖縄激戦地や住民らが身を潜めたガマ(壕)から遺骨を集め供養をはじめ。沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガマフヤー(ガマを掘る人の意)」を設立。開発の進む沖縄で、市民と共に戦没者の遺骨収集を今も続けている。

※若い世代に語り継ぐことで大切なことは何ですか？(八月朔日華音さんの質問)

お年寄りに会ったときに、戦争について聞いておくことです。

※遺骨収集から学んだことは何ですか？(杉山侑歌子さんからの質問)

不条理(間違っていること)を見逃さないこと。黙って通り過ぎず、間違っていると言  
うべきだと思いました。



講演を聞いた細矢瑞希さんは、「戦争の悲惨さを改めて感じました。遺骨収集を通して3つのやってはいけないことを実感したんだなあと思いました。」と話してくれました。また、東海林隆磨くんは「戦争といじめを関連付けて、僕たち中3にも伝わりやすいように話をしてくれた。戦争の悲惨さ、平和の大切さを学ぶことができた。」と話してくれました。